

ぽかぽか

～ 知って 欲しい! ここだけの話 ～

地域包括ケアシステム

<地域包括ケアシステムの実現に向けて>

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

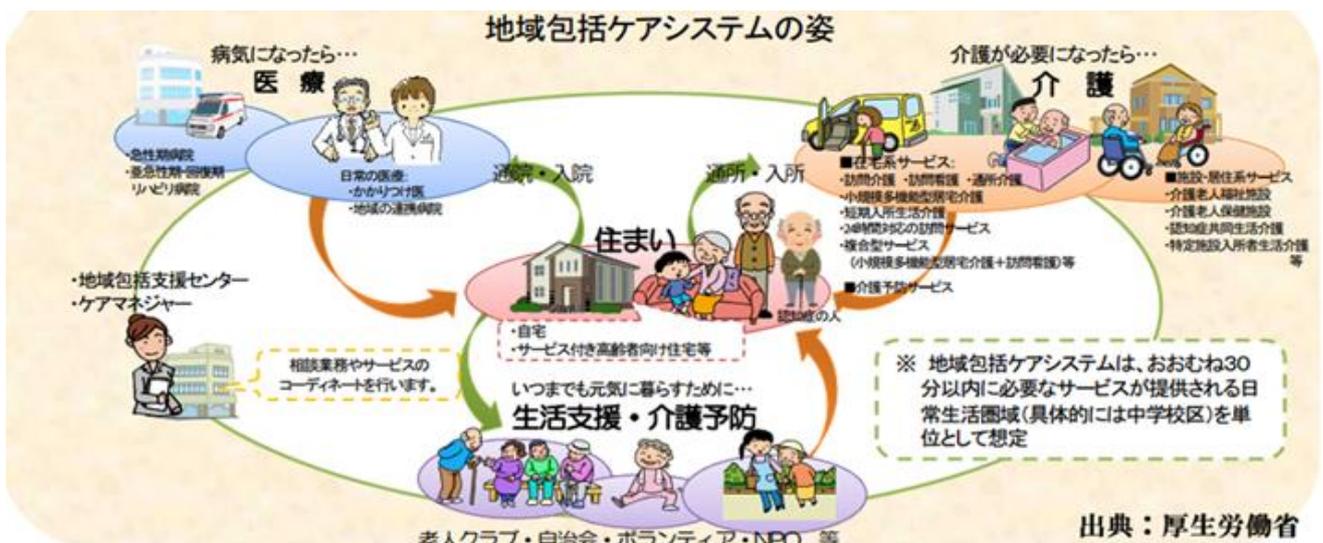
65歳以上の人口は、現在3000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3900万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

このため、厚生労働省においては、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

<地域包括ケアシステムとは>

- ◎ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- ◎ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- ◎ 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。
- ◎ 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。



出典：厚生労働省

ソーシャルワーカーが演題発表を行いました！！

当院には、法人内の教育委員会が毎年主催する「症例検討会・研究発表会」があり、今年度も2月19日に開催されました。

医療福祉支援相談室からは、渡邊、並木が「成年後見制度の申し立てから利用の途上における医療連携について」というテーマで、他の演者とともに発表を行いました。

今回の演題は、ソーシャルワーカーが実際担当したケースで、療養上必要とされた社会資源の紹介と、その資源の利用が決定する前に療養型の医療施設で受け入れていただいたことが報告されましたが、渡邊等が最も強調していたことは、成年後見制度の利用援助ではなく、この患者様に関連する多くの方の理解と協力がなければ、療養型医療施設などの受け入れが実現しなかったことです。

私たち、医療福祉支援相談室のソーシャルワーカーとケアマネジャーの業務は、患者様やご家族は勿論ですが、地域の皆様、医療、福祉、介護に携わる多くの皆様の理解と協力があって成り立っていることを、この演題を聞き改めて実感いたしました。この機会に日頃からお世話になっている皆様に感謝申し上げたいと思います。



ほかほか編集係

～ 健康に良い食べ物の豆知識 ～



筍（たけのこ）

春を代表する旬の食材といえば、たけのこです。

たけのこは、タンパク質・食物繊維・ビタミン類を含む低カロリーの健康食品です。

たけのこに豊富に含まれるカリウムや食物繊維は、高血圧や動脈硬化の予防と改善に効果があります。

また、豊富な食物繊維による便秘解消や整腸作用による大腸ガン予防にも効果があるともいわれています。



編集後記



日増しに春めいてまいりました。

皆様には、どのような春が訪れたでしょうか？

今回は、「地域包括ケアシステム」「ソーシャルワーカーの演題発表」「健康に良い食べ物」を掲載させていただきました。

春爛漫の今日この頃、健やかなる日々をお過ごしください。

（脇田・中莖）

★ ご意見・ご連絡先 ★

医療法人 恒貴会 協和中央病院
医療福祉支援相談室
発行責任者 青柳 利之

〒309-1195
茨城県筑西市門井1676番地1

TEL 病院代表 0296-57-6131
相談室直通 0296-57-7205
相談室直通 0296-57-7230
(休日・夜間 090-6935-3337)

FAX 0296-57-4676
URL <http://www.kokikai.com>
Eメール renkei@kokikai.com

